

第114回森で遊ぶ会・実施報告書 (浜北・県立森林公園)

1 実施日時 平成24年11月20日

2 参加インストラクター

担当: 井上 小久保、 アシスト会員: 藤田 内野 高橋

3 参加者 一般13名(うち、現地参加4名)

4 概要

秋晴れの好天に恵まれ、また暑すぎず寒すぎずの気候で、樹木観察の散策には絶好の条件でした。10時前には浜北の森林公園に到着、準備体操を終えてバードピア前から散策に出発しました。森林公園は広大でとても全体を見て歩く時間はないので、今回は比較的自然林の姿をとどめた南西部を中心に周回コースを組んで散策しました。この公園の紅葉の主演モミジバフウが、随所で黄～赤のグラデーションに染まった葉を風になびかせ、また色とりどりの落ち葉を道に敷き詰めて我々の目を楽しませてくれました。

最初に訪ねた小鳥の丘周辺は尾根筋にあたるので、陽当たりのよい場所を好む樹木が数多く見られました。公園全体の基調をなすアカマツを背景に、真っ赤な羽状複葉が目立つハゼ・ウルシ類、紅色の冬芽と落葉前の葉を残すネジキ、紅葉と赤い実が目立つコバノガマズミ、緑の葉の下に赤い実が揺れるソゴ、黄葉を一面に纏った枝が幾重も棚のように張り出したアオハダなどが、とりわけ参加者の目を引きました。

公園中央部の谷筋にある親水広場周辺では、ラクウショウの膝根(気根)を観察し、またよく似たメタセコイアとの葉のつき方の違い等を学びました。また池の畔のイロハカエデは紅葉の真っ盛りで、見応えがありました。更にピクニック広場近くの湿地では、深紅になったコモウセンゴケや辛うじて花の形が残ったミミカキグサ、シラタマホシクサなどの湿地植物、そしてちょうど花が見頃のウメバチソウなどを見ることができました。

この他にも、静岡近辺では比較的珍しいヤマビワ、イソノキ、アオモジなど暖地性の樹木、そして小さな梨のような実をつけたオオウラジロノキ、しなやかな茎を持ったガンピ、特異な形をしたヒノキバヤドリギなど、特徴のある樹木が観察できました。

利用者も多くよく整備された森林公園ですが、一方でマツクイムシの被害を受け枯死寸前のアカマツの姿が至る所で見受けられました。被害は広がる一方でなかなか対策が追いつかない、という森林管理の難しさを改めて感じさせられる観察会にもなりました。また山中のそこかしこに猪が掘り起こした跡があり、とりわけピクニック広場の芝生では広場一面が耕耘機で耕したようになっている様子に、参加者一同は目を見張りました。近年急増している猪の問題を端的に伺わせるものでした。

乾燥地から湿地まで、様々な環境に数多くの種類の樹木が見られる県立森林公園は、樹木観察や野鳥観察に格好の場所です。参加者も一つ一つの樹木に触れながら、その彩り、手触り、そして臭いを感じ、樹木観察の楽しみを満喫した一日になったものと思います。

